

# 3章

## 授業の実践にあたって

どんなに素晴らしい計画を立てても、実際の授業で生徒が力を身に付けられなくてはなりません。生徒が主体的に学び、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるようにするには、どのような工夫が必要でしょうか。

第3章では、授業の実践の際に心掛けたいことについて説明します。

## 1 学習活動にはふさわしい学習形態がある

## 学習形態とは？

学習活動を進めるときには、学習活動のねらいを実現するためにふさわしい学習形態を考えることが大切です。

例えば、意見交流の場面において、生徒の実態に応じてグループ学習やペア学習を取り入れる、また、問題解決の過程において、個別学習等で考えを確認させてから、クラス全体で意見を発表し合う機会を設けるといように、学習活動に合った形態を取り入れることが必要です。

## ☆グループ学習とは

4人程度の少人数グループを作って話し合い活動を中心に行う学習です。

生徒の学習への意欲を高め、人間関係やコミュニケーション能力を育成することが期待できます。

一斉授業では、発表する生徒の人数は限られ、その他の生徒は聞き役になりがちです。全体の場で意見を言うことが苦手な生徒も、グループの中では自分の意見を気軽に話し合ったり、質問し合ったりすることも可能です。

## 目標に合った学習活動

一斉講義型の授業だけでは、「生徒主体の学びによる授業」にはなりません。しかし、様々な活動をさせることだけが目的になってしまうと、活動しただけで何も学びがなかった・・・ということにもなりかねません。学習目標に合った学習形態や学習活動を工夫して、生徒の主体的な学びにつながる授業づくりを心掛けましょう。

## 机の配置の工夫

学習活動の内容に応じた机の配置を工夫することで、生徒の学習意欲が高まり、学習効果が上がります。

例えば、クラス全体での意見交流の場面で、机をコの字型に配置すると、互いの顔が見えて活発な意見交換につながります。グループ活動場面では、机を向き合わせることでグループとしての一体感が生まれ、活動に取り組もうとする意欲につながります。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

## 学習に取り組みやすい環境づくりを！

座席の位置を配慮することで、落ち着いて授業に参加できる生徒もいます。前を向く講義型の座席であれば、多動な生徒は、他の生徒の動きが目に入らない教室前方の座席を指定する方が落ち着いて過ごせるといわれています。

後ろからの視線が不安で不登校気味だった生徒に対して、全ての教科で座席をできるだけ後方にする配慮をしたところ、少しずつ学校に登校できるようになったケースもあります。



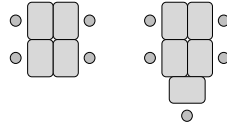
## 机の配置による学習形態の違い

### ペア型



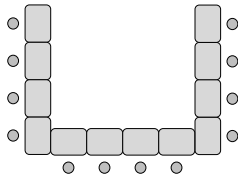
- グループでの活動が苦手な生徒に有効。
- 生徒全員が、話したり聞いたりする活動ができる。
- 気軽に意見交流ができ、自分の考えの確認がしやすい。

### 班型



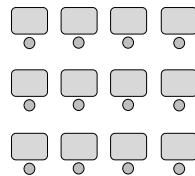
- 班員が知恵を出し合って、話し合うことができる。
- 手元の教材を互いに見合いながら学習できる。

### コの字型



- 生徒が互いの顔を見ながら学習することができる。
- 教師は各生徒の座席近くで学習状況を把握できる。

### 講義型

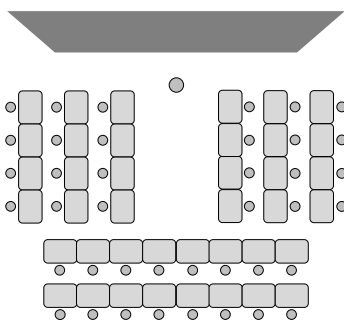


- 生徒全員が同じように黒板を見ることができる。
- 教師は生徒の学習状況を、一望することができる。

日常的に、次のような「コの字型」に机を配置して授業をしている学校があります。そしてグループ活動を行う際には、授業中の短い時間で机を移動し、「班型」の形態へ変形させます。

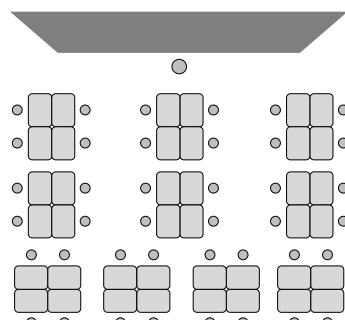
机の配置を工夫することで、全体での講義からグループでの意見交流へ、そして全体での協議という学習活動が効果的に行われています。

### コの字型



クラス全体での学習活動

### 班型



班内での学習活動

## ☆話合いの形態と人数

人数にきまりはありませんが、話合いの目的によってそれに適した人数規模があります。その時間のねらいを明確にした上で、適切な学習形態を選ぶよう、構想しましょう。

(例)

### 2人

- スキルの練習
- テスト
- 確認
- インタビュー

### 3人～4人

- 意思決定
- 課題解決
- 実験

### 5人～6人

- 情報交換
- アイデアの共有
- 発表

## 立ったまま行うグループ活動

模造紙やワークシートを壁に貼って、机や椅子を使わずに、立ったまま議論するグループワークがあります。このようなスタイルで会議をする企業もたくさんあります。立ったままのグループワークは、無駄話が減り、スピーディーに話合いが進んで、議論が深まるという利点があります。

研究成果の発表会等は、椅子に座って聞くことが多いですが、ポスターセッションのように、聞きたいと思う発表者の所へ聞き手が移動し、活発に意見交換をするものもあります。

具体的な活動については、5章—12の探究的な学習における学習指導例を参考にしてみましょう。

目標に合った言語活動  
を組み立てる

## 2 言語活動の進め方

### 言語活動の充実が求められる背景

#### ☆PISA調査とは

経済協力開発機構（OECD）による国際的な生徒の学習到達度調査のことです。義務教育終了段階にある15歳の生徒を対象に、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決能力の4分野にわたり主に記述式で解答を求める問題により調査が行われました。

PISA調査や全国学力・学習状況調査の結果において、我が国の子どもたちは、必要な情報を見つけ取り出すことは得意だが、思考力・判断力・表現力等に関する問題に課題があると指摘されています。

このような中、一人ひとりの生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むためには、言語活動の充実を図ることが大切です。

### 各教科等における言語活動の充実

国語科においては、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、「読むこと」に関する基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述、討論といった言語活動を行う能力を身に付けます。

各教科等においては、国語科で身に付けた能力を基本に、それぞれの教科等の目標を実現する手立てとして、言語の役割を踏まえて、言語活動を充実させる必要があります。

言語活動については、巻末の参考資料—3、参考資料—4にも詳しく説明してありますので、是非、参考にしてください。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を  
考えよう

#### 「話す」ための「書く」支援、「書く」ための「話す」支援

自分の考えや意見を述べたり作文に書いたりすることが苦手な生徒がいます。うまく言えない生徒には、頭に浮かんだことをメモに取らせ、それを見て話させる。うまく書けない生徒には、指導者が言いたいことを聞きとり整理するなど「話す」ために「書く」活動を支援し、「書く」ためには「話す」活動の支援をすることがそれぞれ有効です。

## 思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実

平成20年中央教育審議会答申においては、次のような学習活動が重要であり、このような活動を各教科等において行うことが不可欠であるとしています。

### ①体験から感じ取ったことを表現する

(例)・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する。

### ②事実を正確に理解し伝達する

(例)・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。

### ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例)・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動にいかす。

### ④情報を分析・評価し、論述する

(例)・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する。  
・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめてA4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する。

### ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例)・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする。

### ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例)・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う。

## ☆言語活動の充実を図るポイント

神奈川県立総合教育センター研究成果物「小・中学校」言語活動の充実を図る学習指導事例集」には、次の3つのポイントが示されています。

- 「育てたい力」を明確に
  - 効果的な「活動領域」の選択
  - 活動に適した「学習形態」の設定
- 高等学校の事例ではありませんが、先行事例として参考になる部分があります。

## ☆言語活動と情報活用能力の関係

情報教育が目指している**情報活用能力を育む**ことは、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着とともに、発表、記録、要約、報告といった知識・技能を活用して行う**言語活動の基盤**となるものです。

情報活用能力についての解説は、5章—10に記載がありますので、確認しておきましょう。

## 教育活動全体で言語活動の充実を図った事例(中学校)より

宮城県気仙沼市立新月中学校では、授業での取組として、伝え合う活動における思考・判断・表現のプロセスを、  
①自己の思考を「確認」し「整理」する ②個々の思考を「共有化」し、集団で「発展」させる ③自分の思考の経緯を「記録」し、「振り返る」と分類し、指導過程に位置付けました。また、教育活動全体での取組として、自分と社会とのかかわりに目を向けさせる「交流活動」を実践し、その中で「新月サークルタイム」を設け、①新聞コラムの書き写し活動 ②自分の思いを書く ③全校縦割り班による意見交換 ④振り返りの記述 を行いました。教育活動全体で言語活動の充実を図ることにより、教科で育まれた力をさらに高める成果が得られたという報告があります。

## 3 発問や指示は的確に

### 「何のため」の発問・指示か

発問・指示によって、生徒による自主的な活動を促し、生徒の思考・理解を深め、授業のねらいの実現を図ります。授業のどの段階で、どのような目的を持ち、どのような言葉を用いて発問するのか、生徒の思考の流れを意識して、考えておくことが大切です。

#### ☆限定質問と拡大質問

限定質問とは、答えをYes/Noで答えさせたり、いくつかの選択肢から選ばせたりする質問です。生徒の知識や理解度を確かめることができます。

拡大質問とは、What（何）？やHow（どのように）？などの質問であり、生徒の知識や技能を基に「考えさせる」質問です。

それぞれの質問を効果的に授業に取り入れましょう。

### 主要な発問・指示と補助的な発問・指示

発問には、授業のねらいを生徒に押さえるための主要な発問と、それを導いたり補ったりする補助的な発問があります。

発問・指示のタイミングは、初期段階で主要な発問・指示を行い、後半はその確認や応用による定着を図る、あるいは、ねらいに迫るための補助的な発問・指示を通し生徒の思考を深めてから、主要な発問・指示を行うなど、授業の目標に合わせて構成します。

### 分かりやすく伝えるために

生徒がノートを書いているときや、グループ活動のときなど、聞くという姿勢がないときに、発問・指示をしても生徒は理解できません。「話を止めて、前を見てください。」と指示した後に発問するなど、生徒に聞く姿勢を取らせることが大切です。

また、適切な発問や指示を行うことで、教材をより効果的に活用することができます。生徒の知識・理解度、興味・関心など、実態に合わせて、発問・指示を工夫しましょう。伝えたいことを、筋道を立て、分かりやすい言葉で、簡潔に伝えることも大切です。

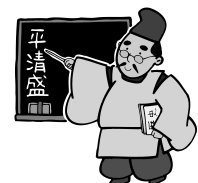
個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 発問・指示を、より分かりやすくするためには…

言語指示だけでは理解することが難しい生徒もいます。こうした生徒には聴覚だけでなく視覚からも理解できるように工夫をしましょう。

- 例えば、
- ・発問内容を書いた紙を黒板に掲示する
  - ・教科書や問題集の使うページを板書する
  - ・作業の工程を図やイラストで提示する

「発問・指示は端的に、分かりやすい言葉で」を常に心掛けましょう。





## 発問の例から考える

次の発問の仕方には課題があります。改善点を考えてみましょう。

「保温ポットに入れた 200 g の水をクラス 40 名が 30 回ずつ振ったら水の温度は何℃変化するでしょうか？」(理科・物理基礎・熱湯温度)

発問の中にたくさんの情報が提示されており、生徒が課題の内容を正しく理解できないことも生じます。内容を段階的に整理して視覚情報を効果的に活用して伝えるとよいでしょう。

### 改善例

- 「保温ポットに水を200 g 入れます。」
- 「これをクラス40名が順番に30回ずつ振ります。」
- 「全員が振り終わったとき、水の温度は何℃変化するでしょうか。」

\*実物・実演、ポイントを書いたカード、イラストなどの活用が効果的です。

## 話し方のポイント

### 授業の導入のトピックス

授業の最初に、生徒の気持ちを引き付けたいものです。そのためは、導入の話題がポイントになります。生徒の関心を高める話題、授業の内容につながる話題等、生徒の実態に合わせて工夫しましょう。

### 生徒の顔を見る

「このことを分かりやすく伝えたい」と思うとき、教科書や黒板を見ながら伝えたのでは、生徒の心には何も響きません。

常に、生徒の顔を見て話すように心掛けましょう。一番後ろの生徒に向かって話すときの声が教室中に響く声の大きさです。生徒に向かって、生徒の表情を確かめて伝えます。

### ポイントをおさえるとき

「これが大事なこと」と伝えるとき、話し方を変えてみましょう。わざと小さな声で話す、反対に大きな声で強調する、ゆっくりと話すなどによって、注意を引くことができます。

また、言葉を繰り返したり、書き留めたりすることも効果的ですし、教師が沈黙することで生徒の注目が集まることもあります。

## ☆生徒からの質問を促す

教師が生徒の質問に答えることで、生徒の理解を助けるだけでなく、一つの疑問をクラスで共有することができます。普段から質問し易い雰囲気を演出し、質問することの大切さを教えましょう。

同時に、教師自身も、質問が出ないときの促し方や、質問への対応の仕方など意識して磨いておきましょう。

## ☆全ての質問に答えるべきか？

生徒の質問の中には、教科書やノートを見れば解決する質問もあるかもしれません。また、生徒自身に考えてほしいポイントに助言してしまっただけでは、せっかくの思考のチャンスをつぶしてしまうことになります。場に応じて対応できるようにしておきましょう。

## 生徒のやる気を促す言葉掛け

「認めてもらいたい」、「向上(成長)したい」という願望は誰にでもあるものです。その願望を叶えるような建設的な言葉がやる気を引き出します。例えば、「この問題は難しい・・・」の後に「だからできないのね」という否定的な言葉を続けるよりも、次のステップを示した「けれど、解く糸口を見付けられたら素晴らしいよ」と励ますことでやる気を引き出すことができるでしょう。生徒の状況や個性・価値観などを尊重する言葉やあるがまま受容している言葉を投げ掛け、前向き・肯定的な評価や助言をするように心掛けましょう。

## 4 「聴く態度」を育てよう

## 「聴く」こと

学び合いの中で大切なことは「発言すること」よりもむしろ「聴くこと」かもしれません。クラスの全員が自分の意見を一生懸命聴いてくれているということが分かれば、分かりやすく話したい、丁寧に説明したいと思うはずで、そのために、「能動的に聴く態度」を育てることが必要です。また「聴くこと」は、自らの思考を深めたり、広げたりすること、判断材料を増やすという意味においても大切です。このことをしっかりと意識させましょう。

## ☆能動的に聴く態度とは

受け身になって聴くのではなく、話を引き出すように聴く態度のことです。話を聴いて、うなずく、相づちを打つ、意見を述べるといった具合に、聞き手の役割を表しています。

## 先生が「聴く」

発表や発言をさせて、その言葉だけを聞いていませんか。生徒に発言させるからには、一人ひとりの意見をきちんと受け止めなくてはなりません。教師が聴く姿勢を示すことが、「聴く態度」の育成の第一歩です。

また、その発表や発言を聴いている子どもたちの思いや、つぶやきも聴くようにしましょう。生徒の考えをつなげることは、教師の大切な役割の一つです。

## やさしい聴き方

相手の話したいことに寄り添って聴く、相手を受け止める、相手に分かるように話す、といったことを意識させるために、「やさしい聴き方をしよう」と普段から意識させていきましょう。たとえ間違っている発言があったとしても、そこから正解を導けば、間違えたことを失敗にしないというクラスの雰囲気ができ、学び合いが深まります。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

## 聴き方のコツを伝えよう

自分の話は一方的にするけれど、人の話を聴くことが苦手な生徒がいます。話を聴くときには、うなずく、相づちを打つ、いいと感じたことを伝えるなど、聴き方のルールやコツをメモにして渡しておく、スムーズな話し合いをすることができるようになります。





## 「聴く態度」を育てる

「能動的に聴く態度」を育成するために、インタビュー形式での話し合い活動が有効です。

インタビューは、自分の知りたい情報を聴き出すものであり、そのために適切な質問をしたり、相手の話を受け止めさらに質問を返したりといった活動です。

また、インタビューは、話すことが苦手な生徒にとっても、質問に答えるという形式なので参加しやすい学習活動となります。

### 〈例〉 「インタビュー活動による聴く態度の育成」

#### 【ステップ1】 身近なテーマでインタビュー

- ペアをつくり、聴き手は質問を繰り返し相手の考えを聴き出す。テーマは、「最近楽しかったこと」といった体験や、「好きな食べ物」といった答えやすいものにする。
- 3分程度の時間を決めて、一つのテーマで話を続ける。
- インタビュー後に聴き手が、話し手の考えをまとめて発表する。

#### 【ステップ2】 根拠を聴き出すインタビュー

- 理由を聴くことを課題として、インタビューを展開させる。「なぜそう考えたのか、根拠は何か」について、納得できるまで質問する。聴き手は相手の発言の後に「～ということですね」と確認して、関連する質問を促す。

#### 【ステップ3】 発表者にインタビュー

- 調べ学習の後の発表やスピーチの場面で行う。発表者に対して、相手の考えを確認する質問、相手の考えを深める質問、助言につなげる質問等を意識して行わせる。

(例)「それは〇〇〇ということですね。それについてもう少し詳しい説明を聴かせてください。」

「〇〇〇について、私は△△△と思うのですが・・・このことについてどう考えますか。」

「〇〇〇はどのように調べたのですか。それがはじめに説明されると分かりやすい発表になると思います。」

### ☆「聴く」と「聞く」

同じ「きく」という漢字です。どちらも音や言葉を「きく」という意味ですが、「聴く」は注意深く耳を傾けてきくときに使う漢字です。

話し手の声を傾聴してほしいとの思いを込めて、授業で生徒に身に付けさせたいのは、「聴く態度」であることを意識しておくといよいでしょう。

## 言葉遣いについて

授業は教師だけでも、生徒だけでも成立しません。教室の中の全員でつくり上げるものです。伝え合いも生徒間だけでなく、教師と生徒の間でも大切です。互いを尊重し丁寧な言葉遣いで会話をするようにしましょう。

ねらいに合った  
板書計画を立てる

## 5 黒板の使い方

## 板書の意義

黒板を十分に活用していますか。黒板は重要な教具であり、黒板の有効な活用は、生徒の学びを深めることにつながるのです。

板書の意義について考えてみましょう。

- ① 板書によって、学習内容を的確に伝えることができます。
- ② 書いて残すことで、1単位時間の流れが分かります。
- ③ 授業の記録として授業を振り返ることができます。
- ④ 生徒の考えを共有し、整理することで学びが深まります。
- ⑤ 書く作業によって、授業に程よい間が生まれます。

## ☆板書計画を立てよう

いくら授業内容が良くても、授業中に思いついたことをそのまま板書しているのでは、生徒の学習効果は上がりません。

日常から授業の前に板書計画を立てることが大切です。小学校や中学校の実践を参考に、自分の板書を磨いていきましょう。

## 有効活用のために

板書の意義を踏まえ、黒板を有効活用するために、学習内容を整理して1単位時間の流れが分かるように板書する必要があります。

そのために、課題の提示、意見の集約、整理等の方法について、事前に計画を立てることが大切です。

また、文字の大きさや色チョークの活用、短冊カードの活用について、さらに書くタイミングなども計画の際に考えておきましょう。

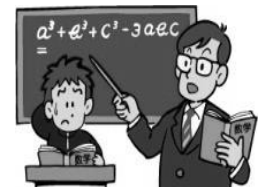
## ノートへの転記

「板書を書き写す」ことだけが授業中の作業になっている生徒はいませんか。もちろん、板書を書き写すことは必要なことですが、ノートに転記する際に、自分の考えや友達の意見を書き添えたり、後で資料を調べて書き加えることができるのがノートの意義です。ノート指導も併せて行いましょう。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

## 板書の構造化

板書の量が多いと、どの情報に注目してよいか混乱してしまいます。字の大きさや書く位置などを工夫しながら情報につながりをもたせ、板書を構造化することも大切です。



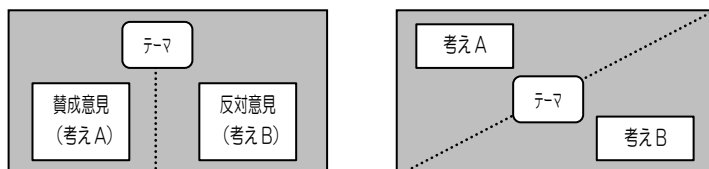
# 黒板の活用

## 目標の提示

板書は生徒と教師の共通のノートです。本時の目標を明確に位置付けておきましょう。課題に取り組むことが目標ではなく、どのような力が身に付くのかを分かるように提示します。

## 意見の集約

生徒の考えを整理しながら板書します。キーワードのような短い言葉で整理すると分かりやすく書くことができます。



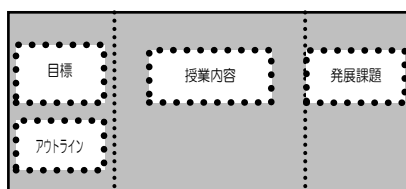
\*キーワードを書く場所を決めて、整理していく方法が有効です。

## 要点をまとめる

授業の要点をまとめて、分かりやすく示すために、図式化すると良いでしょう。キーワードを構造的に置いて、線をつなぐなど工夫しましょう。事前にマグネット付きのカードに書いておくと、時間を省けますし、大事な点が視覚的に伝わります。

また、色チョークを活用するのも有効です。その際、色の約束を生徒と確認しておくとい良いでしょう。

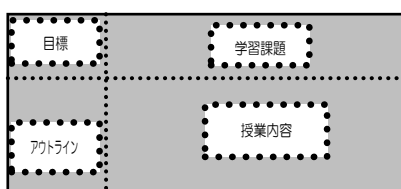
### 〈例〉 「黒板の活用法」



#### 黒板を三つに区切って活用

・左は目標と授業のアウトライン、中央は授業の内容、右は発展的な課題を書く。

アウトラインを示すことで見通しを持った学習が展開できる。このほか、左に課題、中央に解説、右にまとめといった活用もできる。



#### 黒板を四つに区切って活用

・左上段に目標、左下段に授業のアウトライン、学習課題を右の上段に最初を書く。

目標、アウトライン、学習課題を明確にしておくことがポイント。

## カラーユニバーサルデザイン

「カラーユニバーサルデザイン」とは、様々な人の色の見え方に配慮した視覚情報のデザインです。黒板では、赤や青のチョークが見えにくい生徒がいます。また、ピンク系の赤チョークが、白や青と区別しにくいと感じる生徒もいます。赤や青を使わずに、白や黄色を使うようにするとよいでしょう。

見取るポイントを決めて回る

## 6 机間指導の仕方

### 机間指導のねらい

机間指導は、何のためにするのでしょうか。

- ・生徒の学習状況が、学習のねらいを実現しているか観察するため。
- ・生徒一人ひとりの考えなどを理解し学習内容を評価し、個に応じた指導をするため。
- ・生徒の様子から、指示した内容や活動が適切であるか判断し、授業の改善に役立てるため。

このような理由が考えられます。授業は生徒の学びを支援するものですので、生徒の間に入って学びの様子を見取ることが大切です。

#### ☆机間指導における留意点

生徒の質問を受けたり、生徒へ働き掛けたりする場合には、特定の生徒に掛かりきりにならず、クラス全体への目配りを忘れてはいけません。

また、生徒の思考を妨げたり、中断させたりするような指導は避けるようにしましょう。

### 机間指導のポイント

限られた時間で実態を把握するために、あらかじめ「何を見取るのか」観察の視点を決めておき、計画的に回ります。

また、具体的に働き掛け、言葉を交わしてこそ、生徒の考えを広げ、深めることができ、生徒から新たな発見が得られます。

### 机間指導の活用

机間指導では、生徒一人ひとりの活動を見取ることにより、どんなところつまづいているのかということが分かります。一人ひとりの課題や、クラス全体の課題の傾向を知り、個に応じた指導を随時行うことができます。

また、一人ひとりの良い点を見ることもできます。良い取組を全員の前で取り上げ、全体の指導にいかすことで、取り上げられた生徒は認められたと実感できるでしょう。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう

#### きちんと取り組んでいる生徒も認めましょう！

机間指導というと、学習につまづきがあったり、遅れがちだったりする生徒の所で足が止まってしまうことが多いようです。

しかし、それだけでなく、発展的な課題を提示する、次の学習の方向を助言するなど、学習が進んでいる生徒に対する働き掛けも大切にしたいですね。



# 机間指導における関わり方

どのように生徒と関わればよいか、教師の役割をまとめます。

## 指導・助言

つまずきがある場合、既習内容に立ち返らせて、適切な指導・助言を与えます。あらかじめつまずきを想定し、対処法を考えておくと効率的です。

## ほめる

「この考えは素晴らしいよ」などと声掛けをすることで、先生に認められて、自信が生まれます。発言しない生徒も発言できるようになります。

## 思考の深まり

生徒個々の考えをいかしながら、関連付ける手立てを与え、思考をつなげて深めます。特にグループ学習では、教師のファシリテーターとしての役割は重要となります。

## コミュニケーション

主体は生徒です。生徒同士の助け合い・話し合いを促します。結果的に互いの良さを生徒同士で気付くことができます。

寄り添う

つなげる

つぶやく

いかす



## ポイントづくり

「これは～という意味かな？ その考えは参考になるね」周りに聞こえるように意識してつぶやいたことが、生徒の気付きにつながったり、話し合いの視点となったりします。

## 刺激

思考を促したり、情報共有を促すきっかけとなります。また、気付きや考え方を広げることにつながります。

## 評価

机間指導により、生徒の学習活動を多面的に評価することができます。観点別評価、指導過程の修正に役立てることができます。

## 改善

観察・指導から、生徒の多様な発想・考えを見つけるとともに、課題に対する反応や理解度の実態を把握し、授業の組立てに役立てます。

## ☆机間指導を効果的に 行うためには？

生徒のノートやプリントの中に、思考過程が一目で分かるような工夫をしておくとういでしょう。

例えば、「問題に対する試行錯誤のプロセスを残しておくように促す」、「グループ学習において、ほかの意見を通して学んだことや振り返りをまとめるように指示する」などが考えられます。

## 学習活動に参加しようとしていない生徒への対応

学習指導に参加していない生徒を発見したら、どうしますか。参加していない理由を見きわめて、参加できるよう助言するために、生徒の様子を見守る、生徒に声を掛ける、周囲の生徒に働き掛けるなど、様々な方法があります。また、グループ活動などでは、生徒自身の役割を自覚させることで、主体的な参加を促すことができます。「あなたは、質問する役割で参加してみましよう」「意見を言う人のよいところを探してあげてね」など、具体的な役割を机間指導でアドバイスするとよいでしょう。



## 7 ワークシートの活用の仕方

### ワークシートとは…

ワークシートとは、学習内容やポイントを明確に簡潔にまとめることができ、効率的かつ効果的に生徒の学習を手助けする役割を果たす教材です。ワークシートに「書く」活動は、考えを整理するために有効です。

#### ☆ワークシートの保存

せっかく書き上げたワークシートも、整理が行き届かないと紛失してしまったり、破損したりします。

そこで、ワークシート類はファイルにとじたり、クリアファイルに保管させるようにします。

また、時々ファイルの状況を点検するなどのフォローが大切です。

ノートに貼る場合にも、正確に指示をして、整理できるようにしましょう。

### ワークシートの活用

生徒にとって、ワークシートが解答を書き込むだけの作業プリントになってしまうのでは、生徒の学びは深まりません。本時のねらいが達成できるように、ワークシートを活用しましょう。

例えば、課題に対する自分の考えをまとめるために書く、資料を読んで気付いたことを書く、発表のメモを書く、聞いたことをまとめる、分かったことを整理する、本時を振り返るなど、様々な学習活動に活用できます。

また、ワークシートの活用は、評価活動や生徒とのコミュニケーションにも役立ちます。

### ワークシート作成のポイント

どのようにワークシートを活用するのか、生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを考えましょう。

目的によって、シートの内容や、扱い方が変わるはずですが、ねらいを明確にして作成しましょう。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

#### 特性に配慮したワークシートづくり

ワークシートの図の意味を一目見て理解することが困難であったり、簡単な説明だけでは適切な答えが導けない生徒がいます。質問文の字の大きさや書体などを工夫するほか、視覚的に理解しやすい図の工夫、簡潔で分かりやすい質問内容など、生徒の特性に配慮したワークシートづくりを心掛けましょう。



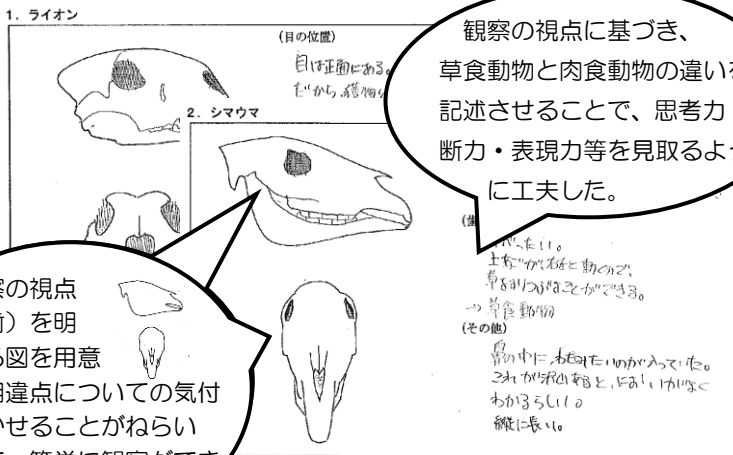
# ワークシートを作る視点

生徒に身に付けさせたい力がはっきりしたら、その力の育成に効果的なワークシートを作成しましょう。

## 身に付けさせたい力による違いの例

課題「肉食動物と草食動物の頭骨標本を観察し、気が付いたことをまとめてみよう。」

(身に付けさせたい力)：「思考力・判断力・表現力等」の場合



観察の視点  
(目や歯)を明確にする図を用意する。相違点についての気づきを書かせることがねらいなので、簡単に観察ができるよう工夫した。

観察の視点に基づき、草食動物と肉食動物の違いを記述させることで、思考力・判断力・表現力等を見取るように工夫した。

(身に付けさせたい力)：「技能」の場合

2 シマウマ

横からのスケッチ	正面からのスケッチ
気が付いたこと：	

観察しスケッチすることがねらいなので、スケッチの欄を大きくとる。

## ☆学習活動を充実させるワークシート

授業の流れを示すことで、次にどんな活動をするのか生徒に理解させることができます。

また、新単元の内容を含めることで、発展的な学習を可能にしたり、活動のヒントや参考資料を記載したりすることで、苦手な生徒の理解を助けることもできます。

生徒の実態に応じて作成することや、生徒にとって適切な分量と内容になるように留意するのがポイントです。

出典：神奈川県立総合教育センター 平成 22 年作成  
「〈中学校・高等学校〉 数学・理科授業づくりガイドブック」p.54

## ワークシートと評価

学習評価においては、生徒の記述物の点検・確認・分析を行う場面が多いと思います。評価の見取りがしやすくなるよう、ワークシートの形も工夫する必要があります。

例えば、「事実の整理」は『知識・技能』とつながりますが、箇条書きにできるよう、罫線を入れてはどうでしょうか。「説明」では『思考・判断・表現』を見取ることが多いので、図を描けるように広く枠取りをする、理由や根拠の欄を作るなど、学習活動と学習評価の両方を想定しながら作るとよいでしょう。→4章-6

## 8 ICTを活用しよう

## ☆ICTの特性や強み

- ①多様で大量の情報を収集、整理・分析、まとめ表現することなどができ、カスタマイズが容易であること。
- ②時間や空間を問わずに、音声・画像・データ等を蓄積・送受信できるという時間的・空間的制約を超えること。
- ③距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができるという、双方向性を有すること。

〈参考〉より引用

## ☆情報活用能力とは

情報活用能力についての解説は、参考資料―5に記載があります。

ここでは、ICTを活用する能力は、情報活用能力の一部にすぎないということを知っておいてください。

## ICTを授業に取り入れる

ICTとは、Information and Communication Technologyの略で、コンピュータやインターネット等の情報通信技術のことを指します。ICTの特性や強みをいかして授業に取り入れていくことは、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために有効といえます。タブレットやプロジェクタなどの機器を積極的に活用して、より充実した授業を目指しましょう。ただし、ICTを授業に取り入れることを目的とせず、指導のねらいを達成するために、生徒に身に付けさせたい力に応じた効果的なICTの活用方法を考えるとよいでしょう。

## 教師が活用する

映像の提示、資料の投影、課題の提示などの活用が考えられます。

## 生徒が活用する

資料収集、調査結果の整理（分析、グラフ化等）、協働学習、発表活動（プレゼンテーション）等での活用が考えられます。

ICTの活用によって、単に情報を収集・整理させるだけでなく、情報を主体的に扱い、受け手の状況を想像した情報発信ができる能力を身に付けさせることができます。これらのICTを活用する能力を含む「情報活用能力」を育成する学習活動は、全ての教科で行うことが重要です。

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

## 特性に応じたICTの活用

読字や書字に困難を示す生徒には、視覚的に分かりやすく理解しやすい大画面テレビによる教材提示やタブレット端末を活用した板書記録が有効です。また、口頭でのコミュニケーションが苦手でも、メールやSNS等を使えば自分の考えを伝えられる生徒がいます。文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトを活用して、自分の考えを表現する活動を取り入れましょう。



## 授業での活用例

### 一斉学習の場面で

例えば、**プロジェクタ**や**ノートパソコン**を用いて画像を拡大して提示したり音声や動画を活用したりすることで、分かりやすく説明することができ、生徒の興味・関心を高めることができます。

### 個別学習の場面で

例えば、**タブレット端末**を活用して一人ひとりの習熟度に応じた学習を進めることで、個々の課題に対応することができます。また、**ノートパソコン**を利用し、インターネットを用いた情報収集を通して自らの課題解決に生かしたり、シミュレーションをしたりすることで思考を深めたりすることができます。

その他、活動の様子を**ビデオカメラ**で撮影し見直すことで、できていることやできていないことを理解し次につなげたり、**デジタルカメラ**で疑問に感じたものの記録をとったりすることができます。

個別学習の場面でICT機器を活用することで、個々の課題を解決したり、それぞれにあった進度で学習したりすることが可能となり、より効果的に学習を進めることができるようになります。

### 協働学習の場面で

例えば、**プロジェクタ**や**ノートパソコン**を用いて調べ学習のまとめを全体の場で発表したり、**実物投影機**を活用して自分の作品を映して発表したりすることができます。その他**インターネット**を用いて遠く離れた学校や国との交流も可能となり、新たな発想や気づきを生むことができます。

協働学習の場面でICT機器を活用することで、発表や交流を活性化することができ、思考力・判断力・表現力等の効果的な育成を可能とします。

## ☆映像資料について

総合教育センターのホームページに、「教材作成に役立つリンク集」のページを用意しています。

普段から情報収集を行っておきましょう。

## ☆情報モラルに関する指導

情報モラルに関する意識を育てることも、各教科・科目の指導の中で行うこととして求められています。具体的には、情報の収集、判断、処理、発信など情報を活用する各場面に応じた情報モラルについて学習させることが考えられます。

教員は、法令や問題が起きた際の対処への知識等を持つことが必要です。

その上で、どのような教材があるのか、どのようなタイミングで、どのような方法で指導することが効果的であるかを考える必要があります。

## 〈参考〉

ICTを活用した教育の推進に関する懇談会「「ICTを活用した教育の推進に関する懇談会」報告書（中間まとめ）」平成26年8月29日

## 活用はアイデア次第

教科書や資料、ワークシート等、生徒全員が持っているものを提示することにも意味があります。教科書等の一部を隠して提示することで、学習内容に注意を向けさせることができます。また、「どこを見ればいいのか分からない」と授業に対する関心が低下してしまう生徒に対して、授業に集中させる手立てとして使うこともできます。

国語や英語などで長文を提示したり、数学などで解法を解説したりする際など、スクリーンを使わず黒板に投影する使い方も考えられます。生徒がコンピュータ等を使って作業する活動を取り入れ、学びを深めることもできます。

## 9 これからの授業づくりと学びの支援

## インクルーシブ教育の実現に向けて

神奈川県ではインクルーシブ教育として、支援教育の理念のもと、共生社会の実現に向け、できるだけすべての子どもが同じ場で共に学び共に育つことをめざします。

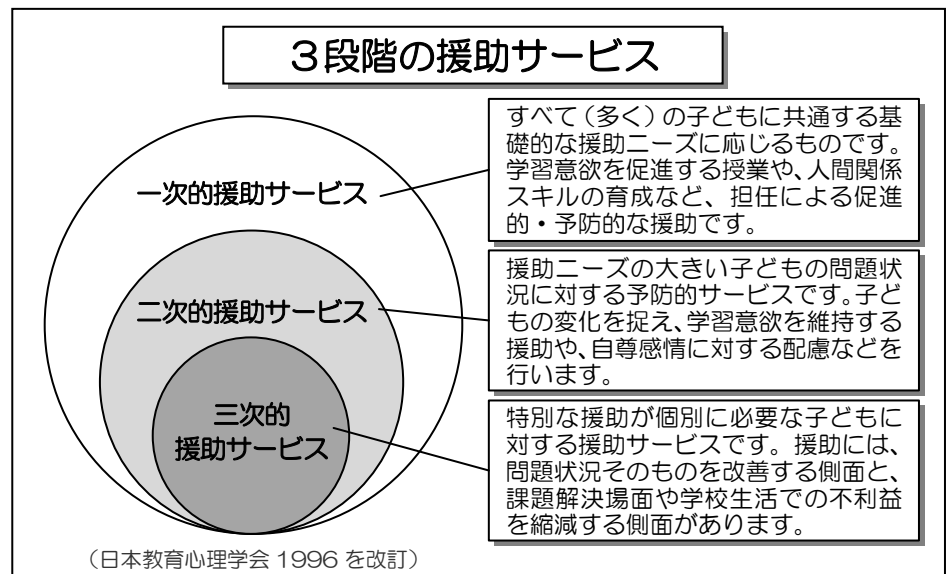
☆インクルーシブ教育  
システムとは

2012年に中央教育審議会初等中等教育分科会から「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」が示されました。その中で、「同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組み」と定義しています。

授業でいえば、「工夫された教材」や「分かりやすい指示」、「一人ひとりにあった学び方」、「学び合い」などを取り入れ、「楽しく参加できる授業」や「分かりやすい授業」、「子どもが主体となる授業」が求められています。

支援教育で取り組んできた、教育的ニーズのある生徒が参加できる環境整備や指導上の工夫や改善などを、さらにすすめていく必要があります。

授業等において、生徒のニーズに応じた支援を考える際、「3段階の援助サービス」を参考に整理するとよいでしょう。



引用・参考：石隈利紀 1999「学校心理学」誠信書房

個別支援  
が必要な  
生徒への  
対応を考  
えよう

**個別の支援(合理的配慮)とともに、基礎的環境整備の充実を!**

今後、次に示すような各学校の様々な教育資源を活用した支援体制や、教育環境等の基礎的環境整備の充実等が重要になります。教職員間の意識の向上や情報の共有が重要になります。

- ・校内委員会や教育相談コーディネーターによるチーム体制の整備・充実
- ・情報保障として、拡大教科書や音声教材等の教材及び支援機器の整備・充実
- ・支援シートや個別の指導計画の作成・活用による指導
- ・個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導(柔軟な教育課程の編成等) など



# 合理的配慮を考える

インクルーシブ教育において、障害のある生徒が参加するために個別に必要となる支援を合理的配慮と呼びます。インクルーシブな授業づくりにおいて重要な概念の一つです。生徒の困難さを理解し、その子の教育的ニーズに応じた適切な支援（合理的配慮）を行わなければなりません。その内容は、それぞれの生徒によって異なります。

## 合理的配慮の観点と改善例（一部）

### ○学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

- ・障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するため、また、個性や障害の特性に応じて、その持てる力を高めるため、必要な知識、技能、態度、習慣を身に付けられるよう支援する。

#### 改善例

読み書きや計算等に関して苦手なことをできるようにする、別の方法で代替する、他の能力で補完するなどに関する指導を行う。（文字の形を見分けることができるようにする、パソコン、タブレット端末等の使用、口頭試問による評価 等）

### ○学習内容の変更・調整

- ・認知の特性、身体の動き等に応じて、具体的な学習活動の内容や量、評価の方法等を工夫する。障害の状態、発達の段階、年齢等を考慮しつつ、卒業後の生活や進路を見据えた学習内容を考慮するとともに、学習過程において人間関係を広げることや自己選択・自己判断の機会を増やすこと等に留意する。

#### 改善例

注意の集中を持続することが苦手であることを考慮した学習内容の変更・調整を行う。（学習内容を分割して適切な量にする 等）

### ○情報・コミュニケーション及び教材の配慮

- ・障害の状態等に応じた情報保障やコミュニケーションの方法について配慮するとともに、教材（ICT及び補助用具を含む）の活用について配慮する。

#### 改善例

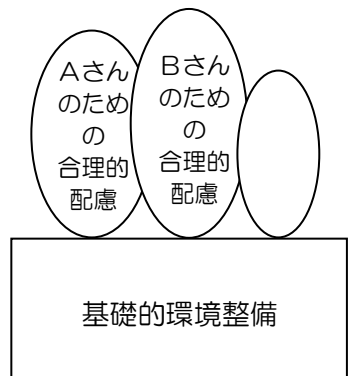
読み書きに時間がかかる場合、本人の能力に合わせた情報を提供する。（文章を読みやすくするために体裁を変える、拡大文字を用いた資料、振り仮名をつける、音声やコンピュータの読み上げ、聴覚情報を併用して伝える 等）

### ☆合理的配慮とは

- ・障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うこと。
- ・障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの。
- ・体制面、財政面において、均衡を失った又は過度の負担を課さないもの。

### ☆基礎的環境整備とは

- ・合理的配慮の基礎となるものであって、障害のある子どもに対する支援について、法令に基づき又は財政措置等により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、それぞれ行う環境整備。



## バリアフリーとユニバーサルデザイン

バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア（障壁）に対処するとの考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。

基礎的環境整備を進めるに当たっては、バリアフリー対策を推進するとともに、ユニバーサルデザインの考え方も考慮しつつ進めていくことが重要であるとされています。

引用・参考：中央教育審議会初等中等教育分科会 2012 「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」